



第4回

佐賀大学医学部 分子生命科学講座リトリート

2015年

8月24日 月

12:00 ~
25日(火) 12:00

学術プログラム会場

休暇村志賀島

福岡市東区勝馬1803-1

電話:092-603-6631

懇親会・宿泊会場

海の中道ホテル The LUIGANS

福岡市東区西戸崎18-25

電話:092-603-2525

世話人

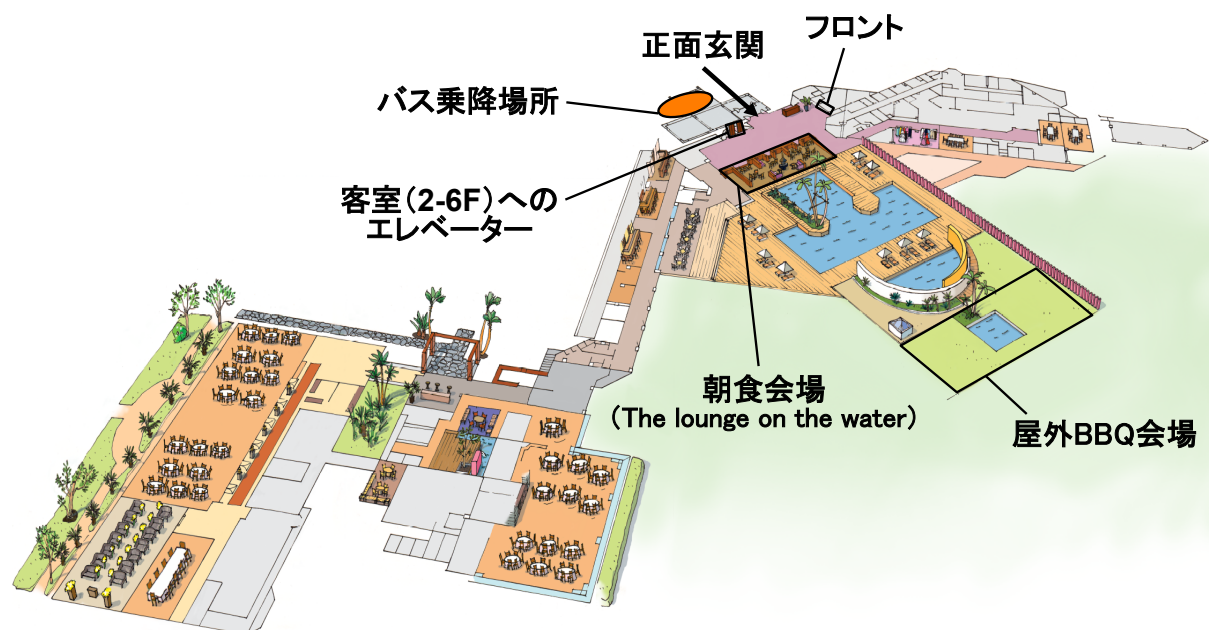
岡田貴裕 (池田研)

城圭一郎 (副島研)

小川雅弘 (出原研)

三宅靖延 (吉田研)

ルイガンズ案内図

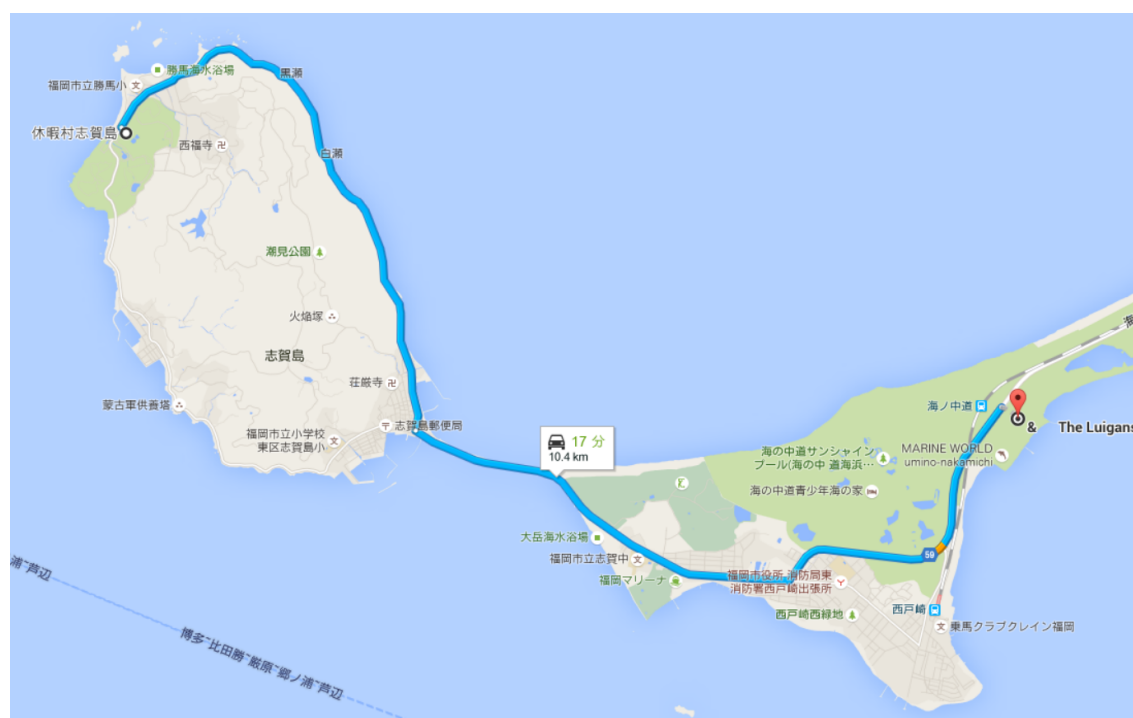


JR を利用したアクセス

JR 海ノ中道駅からホテルまで徒歩5分

特急みどり 8 号	佐賀	9:53	博多	10:34
鹿児島本線准快速・小倉行	博多	10:45	香椎	10:56
香椎線・西戸崎行	香椎	11:00	海の中道	11:21

ルイガンズ(宿泊) ⇄ 休暇村志賀島(学術プログラム会場)



参加者

分子医化学	免疫学	細胞生物学	分子遺伝学 エピジェネティクス
出原賢治 教授	吉田裕樹 教授	池田義孝 教授	副島英伸 教授
有馬和彦 准教授	三宅靖延 准教授	井原秀之 准教授	城圭一郎 准教授
太田昭一郎 講師	見市文香 助教	岡田貴裕 助教	西岡憲一 講師
小川雅弘 助教	倉田 里穂 助教		東元健 助教
南里康弘 助教	久保田未央 大学院生		八木ひとみ 技術職員
三田村康貴 大学院生	末松梨絵 大学院生		渡邊英孝 大学院生
吉原智仁 大学院生	童紅連 大学院生		樋高秀憲 大学院生
小野純也 大学院生			青木早織 大学院生

部屋割り

- 330号室 池田義孝、小川雅弘、三田村康貴
- 323号室 出原賢治、井原秀之、樋高秀憲
- 325号室 吉田裕樹、東元 健、南里康弘
- 326号室 有馬和彦、西岡憲一、渡邊英孝
- 327号室 副島英伸、三宅靖延、小野純也
- 328号室 城圭一郎、太田昭一郎、岡田貴裕、吉原智仁
- 407号室 見市文香、八木ひとみ、末松梨絵
- 408号室 倉田里穂、青木早織、久保田未央、童 紅連

* 部屋は禁煙ですので喫煙は所定の場所をお願いします

* 緊急連絡先 各研究室の世話人へ連絡をお願いします。

プログラム1日目

8/24(月) 進行: 三宅靖延(免疫学)

12:00	ルイガンズ集合	荷物→フロント
	バス ルイガンズ発	
12:20	バス 休暇村志賀島着	
12:30	開会の言葉	出原賢治
12:40	研究室紹介 出原賢治	(分子医化学)
12:55	吉田裕樹	(免疫学)
13:10	池田義孝	(細胞生物学)
13:25	副島英伸	(分子遺伝学)
13:40	休憩	ルームキー配布
13:55	演題1: 樋高秀憲	(分子遺伝学)
14:20	演題2: 渡邊英孝	(分子遺伝学)
14:45	演題3: 青木早織	(分子遺伝学)
15:10	諸連絡	
15:30	バス 休暇村志賀島発	
15:50	バス ルイガンズ着 自由討論	
18:50	集合写真撮影	
19:00	BBQ	乾杯: 池田義孝

- 研究室紹介 発表 15 分
- 演題 発表 18分、質疑応答7分
- 発表直前の休憩時間に PC またはデータを PC デスクまでお持ち下さい
- バスは点呼なしで定時に出発するので、遅刻者は自力で移動して下さい

プログラム2日目

8/25(火) 進行: 城圭一郎 (分子遺伝学)

6:30	朝食	The lounge on the water
8:30	バス ルイガンズ発	
8:50	バス 休暇村志賀島着	
9:00	演題4: 岡田貴裕	(細胞生物学)
9:25	演題5: 見市文香	(免疫学)
9:50	演題6: 倉田里穂	(免疫学)
10:15	休憩	ルームキー回収、投票用紙配布
10:30	演題7: 三田村康貴	(分子医化学)
10:55	演題8: 小川雅弘	(分子医化学)
11:20	休憩	投票用紙回収
11:35	最優秀演題表彰	副島英伸
11:45	閉会の言葉	吉田裕樹
12:00	バス 休暇村志賀島発	
12:20	バス ルイガンズ着 解散	

■ 参加者全員の投票で最優秀演題を選びますので、下記を参考に審査をお願いします

① 研究内容に関して、

理解度、進め方、方向性、新規性、独創性

② 発表に関して、

論理展開、分かりやすさ、スライドの見やすさ、発表時間

③ 質疑応答に関して、

質問内容の理解度、回答の的確さ

研究室紹介要旨

分子医化学分野（出原賢治）

分子医化学分野では、アレルギー炎症を中心とした炎症発症における分子機序の解明と基礎的知見に基づく臨床応用を目指しています。最近では、マトリックスタンパク質であるペリオスチンについての研究が中心となっています。ペリオスチンに関する基礎研究としては、発現調節機構、シグナル伝達機構、モデルマウスを用いた *in vivo* での解析などを行っています。臨床応用としては、ペリオスチンを標的とした診断薬、あるいは治療薬の開発を、企業、あるいは他研究施設と進めています。ペリオスチン以外では、ペルオキシダーゼを介した気道炎症機序や NF- κ B 関連遺伝子の改変によるアトピー性皮膚炎の発症機序などについても解析を行っています。

免疫学分野（吉田裕樹）

免疫学分野では、主として遺伝子改変マウスを使うことにより、免疫の仕組みを明らかにすることを目指しています。具体的には、1) Toll 様受容体とは異なる自然免疫受容体群、レクチン受容体による結核菌や原虫・真菌の認識機構とそのシグナル解析、2) 免疫抑制性サイトカインの解析と治療応用・創薬、3) 免疫疾患や発がんにおけるアポトーシスの役割の解析、4) 炎症誘導における TRIM (TRIM; tripartite motif) 分子の機能解析などの研究を行っています。さらに、内科などとの共同研究により、動脈硬化の背景にある自然炎症の誘導機構やその可視化、自己炎症性疾患における TRIM 分子の関与などの解析を行っています。また、原虫に対する感染免疫研究の一方で、原虫に特異的な代謝経路の解明やその特異的阻害薬の開発を目指した研究も行っています。

細胞生物学分野（池田義孝）

糖鎖生物学と酸化ストレスを中心に研究を行っています。糖タンパク質アスパラギン結合型糖鎖の生合成の中でもとくにコア構造形成に関与する糖転移酵素について、その反応機構や活性調節、in vitroにおける酵素学的性質や、糖鎖構造形成を介したin vivoにおける機能を検討しています。酸化ストレスについては、酸素電極や酵素電極を用いたレドックス解析の方法論および細胞培養系における測定系の検討を行っています。また、そのような電気化学的手法を用いて、例えば in vitro 糖鎖生合成およびその逆反応のような化学反応の制御や、糖鎖が関与するレドックス反応への適用についても検討を始めているところです。研究室としてとくに目指すものはありませんが、面白いと感じることについて、方法論や概念などの点で従来とは違う角度から研究できればと考えています。

分子遺伝学（副島英伸）

分子遺伝学・エピジェネティクス分野では、ゲノムインプリンティングを中心としたエピジェネティックな遺伝子発現調節機構の解明と疾患のゲノム・エピゲノム解析に基づく病態解明を目指しています。具体的には、shRNA ライブラリーを用いたインプリンティング制御因子のスクリーニング、メチル化インプリントの確立と遺伝子発現調節機構の解明、ヒストンメチル化酵素の標的遺伝子同定、ポリコーム関連因子の生化学的機能解析を行っています。疾患解析では、間葉性異形成胎盤、大腸癌、ソトス症候群のゲノム・エピゲノム解析を行い、全国から依頼されるベックウィズ・ビーデマン症候群の遺伝子解析も行っています。最近では CRISPR-Cas9 システムを用いてマウスや細胞の遺伝子改変を行い、研究に役立っています。